

▼文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞



子どもの未来を拓く挑戦が全国から注目

秦荘西小学校教職員組織が、「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞しました。

文部科学大臣優秀教職員表彰は、教育実践などにおいて顕著な成果を上げた教職員および教職員組織の功績をたたえる制度です。

秦荘西小学校では、令和6年度から40分5時間制を導入しています。40分授業によって生み出された時間を効果的に活用し、児童の自己調整力を育む取組を進めてきました。

これらの実践は、次期学習指導要領にもつながる先進的な取組として高く評価されており、全国各地から100校を超える学校が視察に訪れるなど、大きな注目を集めています。

前例にとらわれることなく、目の前の子どもたちの未来を見据えながら新たな教育活動を創り続けてきた教職員組織の取組が評価され、今回の受賞に至りました。

▼原田代表取締役会長（写真左）



寄附金をいただきました

1月5日、株式会社スマイルエンジニア様より、町へ4万円の寄附金を贈呈いただきました。

同社は、令和4年3月26日に就労継続支援A型事業所を開設され、現在は就労継続支援A型・B型の多機能事業所として、地域に根ざした支援に取り組んでおられます。

原田代表取締役会長は「町の福祉施策支援のためにお役に立てください」と述べられ、有村町長へ寄附金を手渡されました。

いただいた寄附金は、町の福祉施策の充実のため、大切に活用させていただきます。



▼みおしづくを使ったジャム作りの様子



愛荘町産農作物でスイーツ作り

1月24日、あいしょう農交愛ランド協議会主催による「愛荘町産農作物を使用したスイーツ作り教室」が開催され、町内外の親子連れなど18人が参加しました。

当日は、町内産の米粉を使ったパンケーキ作りと、滋賀県初のオリジナル品種であるイチゴ「みおしづく」を使ったジャム作りに挑戦しました。

また、生産者から「みおしづく」の品種の特徴や栽培への思いについて紹介もありました。

参加者からは、「米粉でパンケーキを作るのは初めてで、もちもちしておいしかった」「みおしづくがとても甘くておいしかった」などの声が寄せられました。

今回の教室を通して、愛荘町産農作物の魅力を再発見するとともに、地産地消への関心を深める機会となりました。

▼表彰式に参加した子どもたち



愛荘リーディングアーチェリー表彰式

昨年度、図書館では、参加者が読んだ本を自ら記録する読書記録活動「愛荘リーディングアーチェリー」を開催しました。

愛荘リーディングアーチェリーは、国スポ・障スポで愛荘町がアーチェリー競技の会場となったことを記念し、本を読むごとに読書の的に矢が当たる仕組みを読書記録活動として企画したものです。

この企画に合計431名の皆様にご参加いただき、1月31日に、読書冊数が多かった上位5名の方の表彰式を行いました。

表彰式に参加された方からは、「たくさん本が読めて楽しかった」などの感想が寄せられました。

令和8年度も図書館では、読書を応援するさまざまな活動を企画しています。5月から開催予定ですので、ぜひご参加ください。

▼地域の公共交通について説明する職員



5年生が町の今とこれからの考える

1月13日と15日の2日間、秦荘西小学校5年生が、総合的な学習の時間に「愛荘町の現状と課題」について学びました。

当日は、役場の若手職員が学校を訪れ、人口の推移をはじめ、町の魅力発信、環境保全、公共交通など、愛荘町の現状について分かりやすく紹介しました。また、町が抱えるさまざまな課題についても、資料や写真を交えながら丁寧に説明しました。

今回の学習を通して、児童たちは愛荘町を「自分たちが暮らす町」として改めて見つめ直し、町の良さや課題の両面について理解を深めることができました。

また、この学びを生かし、グループごとに課題解決に向けたアイデアをまとめました。

子どもたちの柔軟な発想が、これからの愛荘町の未来につながっていくことが期待されます。

▼千人針について説明を聞く児童



戦争を「知る」から「感じる」へ

1月20日、秦荘東小学校の6年生が、平和学習の一環として、愛荘町遺族会の皆さんから戦争について学びました。

授業では、実際に戦争中に使われていた品々が紹介されました。戦地で害虫などが足元から入るのを防ぐために足首へ巻いていた「ゲートル」や、家の中の明かりが外に漏れないようにするための工夫など、教科書だけでは知ることのできない当時の暮らしの様子について学びました。

児童たちは、貴重な資料を実際に手に取り、体験者の声を直接聞く中で、戦争を自分たちの暮らす地域ともつながる出来事として捉え、より身近なものとして感じている様子でした。

子どもたちにとって、平和の大切さについて深く考える貴重な学びの時間となりました。

▼生徒オリジナルの食品サンプルの作品



個性輝く愛知中学校卒業展

2月4日から20日まで、第11回愛知中学校卒業展が愛知川びんてまりの館で開催されました。

会場には、愛知中学校の全校生徒による個性あふれる作品が展示されました。1年生は身近にある「缶」を粘土で精巧に再現した作品、2年生は漢字一文字をもとに、文字とイラストを組み合わせる表現した作品、3年生は「今の自分」を表現した自画像とオリジナルの食品サンプルを制作しました。

そのほかにも、部活動で制作したドレスや法被など、さまざまな作品が並び、会場を彩りました。

来場者は、作品に添えられたエピソードを読みながら、一つひとつの作品をじっくりと鑑賞していました。

生徒の感性と努力の結晶が詰まった、見ごたえのある卒業展となりました。

▼学芸員から振り子時計の説明を聞く児童たち



子ども学芸員になって学ぶ 昔の道具のひみつ

2月12日、歴史文化博物館の学芸員による、愛知川東小学校3年生を対象とした博物館出前授業が行われました。

授業では、学芸員から「昔の生活道具（時計や火を使う道具）」として、火熨斗や炭火アイロン、振り子時計、商館時計などが紹介されました。

児童たちは「子ども学芸員」として、学芸員の説明を熱心に聞き、道具の大きさや重さ、特徴を一つひとつ確かめ、記録やスケッチをしました。

また、実際に道具に触れながら「火熨斗はひしゃくの形に似ているね」「スイッチやボタンがないのにアイロンができるなんてすごい!」「時計の中の仕組みが面白い!」といった驚きや発見の声が次々に上がりました。

児童たちは、当時の人々がどのように工夫して暮らしていたのかを想像しながら、昔の暮らしについての学びを深めていました。